

2011年大阪市長選挙立候補予定の皆様へ

もと精華小学校・幼稚園の保存とその活用に関する公開質問状

2011.11.08

大阪文化団体連合会
日本演出者協会関西ブロック
大阪新劇団協議会
全日本リアリズム演劇会議・西会議
日本音楽ユニオン関西地方本部
関西JAZZ協会会長大塚善章
全国児童・青少年演劇協議会関西ブロック
大阪府おやこ劇場連絡会
人形劇人の会-大阪
「上方芸能」編集部
近畿産業考古学会
精華小校舎愛好会
(社) 日本建築家協会近畿支部・同 大阪地域部会・同 保存再生部会

公開質問状の主旨

この度、大阪市長選挙に立候補される皆様の志に敬意を表します。
市長選挙の告示を前に、大阪市中央区のもと精華小学校・幼稚園についての公開質問状を作成いたしましたので、ご高覧のうえ、是非ともご回答頂きますようお願いいたします。

もと精華小学校・幼稚園の校舎は、工期2年半を要して建設され、昭和4年に竣工した当時の先進的学校建築です。
大大阪時代の精神が外観や内部空間の随所に込められていて、その質・規模共に我が国学校建築の代表的存在といえるものです。
関東大震災の教訓を反映した当時高水準の耐震耐火構造であり、エレベーターなどの先進設備を有し、大空間の講堂・体操室・遊戯室と多彩な教室群とが機能的に構成されており、また幼稚園、小学校、実業教育が一体となった類のない先駆的な建物です。

また1995年に廃校となった後も、その校舎の価値ゆえに社会教育施設として、また精華小劇場の名称で舞台芸術の実験の場として活用されてきました。
この精華小劇場では、2004年から地域、行政、演劇関係者で精華小劇場活用実行委員会を作り、精華演劇祭などを行い、公演を開催してきました。しかし大阪市が精華小学校跡地を「未利用地」と位置づけ、処分の準備に入るため、暫定期間の10年を待たずして2011年3月31日に閉館されてしまいました。

当時は学区という、独立した財政と自立した地域の行政単位としての小学校費用負担区域があり、その学区が独自に小学校校舎を建設していたため、地域に深く根ざした小学校が生まれていました。
ちなみにもと精華小学校・幼稚園の建設費は当時の金額で約60万円であり、学区民から多くの寄付が集まったこと、同時期に建設された大阪城天守閣の約47万円よりも高額だったことが伝えられています。

しかし2011年6月2日の新聞紙上において、もと精華小学校・幼稚園の土地建物が公募売却される方針との報道がありました。
もと精華小学校・幼稚園は、近代大阪の市民の教育文化の証として、後世に伝えられる唯一最後の存在であり、指定文化財にも値する他にはないここだけの、また今ではどれ程お金を積んだとしても再現が不可能な、希少な価値を持っています。
それを安易に売却することで失うのではなく、その価値を活かし、知恵を絞ることで大阪市の活性化の核の一つとしての役割を果たすことこそが、今は必要なのではないのでしょうか。

経済的にも文化的にも長期低落傾向の著しい大阪市を、これからどのように活性化し、再び魅力ある街にしていくかは、大変難しく課題も多い問題です。
それは高度経済成長期に始まり、後のバブル経済期にも顕著であったスクラップ&ビルドの思考のまま、開発を単に続けるだけで解決できるものではなく、大阪にある有形無形の多種多様な資産を活かし、広く議論しながら文化や経済の土壌を育むというプロセスがますます重要となるはずです。

もと精華小学校・幼稚園の総合的価値の再認識と、その公共的な活用を進めることは、単に廃校となった一小学校のあり方にとどまらず、大阪市と大阪市民のために、そして大阪のかけがえのない文化や経済を守りながら独自性と継続性を持ち得た発展を遂げるための、とても大事な試金石であると考えています。

皆様の文化や街づくりへの取り組みにつきましてお教え頂きますよう、お願いいたします。

ご多忙のなか、大変恐縮ですが、11月13日（日）までに下記の連絡先までご回答いただきますよう、お願いいたします。なお、頂きました回答につきましては、各団体のウェブサイトで公開し、マスコミ各社へ発表をさせていただくとともに、11月16日（水）に大阪中央公会堂にて開催されます、大阪の文化に関わる催しなど、いくつかのイベントでも取りあげさせていただきますので、ご了解願います。最後ではありますが、皆様のご健闘をお祈りいたします。

本件連絡先：社団法人日本建築家協会近畿支部事務局
〒541-0051 大阪市中央区備後町2-5-8 綿業会館4階
TEL (06)6229-3371 FAX (06)6229-3374
E-mail jia@bc.wakwak.com

質問内容

1. 大阪市では、今年度より「OSAKAたてもものルネサンス事業（大阪市歴史的建築物再生整備補助事業）」を施行しましたが、これからこの事業の対象範囲を一層広めていくお考えがあるかどうか、お聞かせ下さい。
2. もと精華小学校・幼稚園の価値をどのように評価されて、また今後この校舎の有効活用をお考えになれるのか、お聞かせ下さい。
3. もと精華小学校の体育館は精華小劇場として再活用されてきましたが、ここは開かれた劇場として、様々な舞台芸術の実験や、演劇に関わる人や文化の交流の場として国際的に評価されてきました。それを暫定利用期間を待たずして、今年3月に閉館したことの損失をどのように考えられるのか、またそれだけでなく、戦後上方落語隆盛の場所となるなど、文化の発信、振興を担ったもと精華小学校・幼稚園の存在が、これからの文化発展にどのような意義をもつと思われるのか、お聞かせ下さい。
4. 他市では、小学校が廃校となった後もあくまで地域活性化の拠点として、地域での位置づけや活用方法などを市民と共に考え、検討を進める制度が作られています。今後の大阪市での街づくりをどのように進めようとしているか、お聞かせ下さい。
5. 長年国の管理となっていました大阪市の大動脈御堂筋が、来年度にも半世紀ぶりに大阪市内に移管されます。そのことと関連しまして、これからの大阪の街づくりの視点から、御堂筋やミナミについての将来ビジョンをお聞かせ下さい。
6. もと精華小学校の地域は、当校が閉鎖されている為に現在有効な避難広場がない状態にあります。地域市民の防災上の安全確保の観点からどのようにお考えになられているのか、お聞かせ下さい。
7. もと精華小学校・幼稚園の校舎は、診断に際して入力する設計基準についても、実際のものとは異なり低くみているようです。正確な診断をするために、本格的な調査をして耐震診断をされるご意向はありますでしょうか。

以上